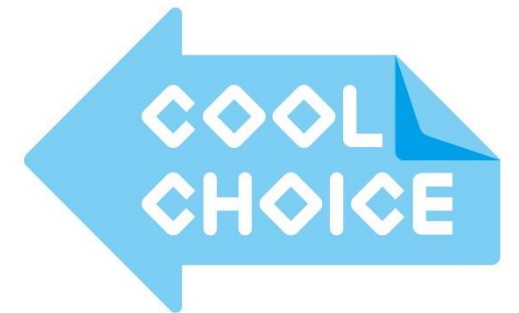




第77期(2022年度)環境経営レポート

ECO ACTION 21

対象期間：2022年10月～2023年9月



発行：2023年09月30日
更新：2024年08月17日

目次

- 経営理念:3
- ご挨拶:4
- マルキチの沿革:5
- 環境理念・環境経営方針:6・7
- 組織概要と認証・登録規範:8
- 組織図:9・10
- 環境目標と実績:11・12
- 環境経営活動計画の取組と評価:13
- 電力による二酸化炭素の削減:14
- 自動車燃料による二酸化炭素の削減:15
- 一般廃棄物削減の削減:16
- 食品廃棄物発生抑制・再生利用率の向上:17
- 水道水の削減:18
- 社員の健康増進と感染対策、毒劇物の適正管理:19
- 営業方法の改革で企業価値の向上:20
- 環境関連法規等の遵守状況及び結果・違反・訴訟の有無:21
- 代表者による全体評価と見直し・指示:22

経営理念

私たちは、
食を通して【心豊かに安心して暮らせる社会】の実現に貢献します。

私たちは、
共に高め合い成長し輝く企業を作ります。

私たちは、
信用を第一に考え社会と企業の持続的発展を目指します。

私たちは、
企業市民として持続可能社会の実現に貢献します。

ご挨拶

コロナも第五類分類となってようやく終息し、日常の姿が街に戻りつつあります。日本国内の移動も制限がなくなり、海外との行き来も増えてきました。コロナ禍に変容した生活や仕事の形態も元に戻りつつあります。一時騒がれていたようなりもートやバーチャルが主流となる世の中にはなりそうにありません。

しかしすべてがコロナ前に戻るわけではなく、ここ数年で手に入れた便利な仕組みやツールは適材適所で使い続けるでしょう。コロナ禍で唯一良かったことは、空がきれいになり川が透き通ったことだとなたかがおっしゃっていました。人間が動くと自然環境に負荷をかけ、動きが止まると自然は生き返るという事が良くわかる言葉だと思います。

コロナは明け、世界も元に戻りつつありますが、環境負荷に関する考え方は後戻りしないようにせねばなりません。会社も物流が増え人も動くようになりましたが環境負荷の低減に引き続き取り組みます。

2023年12月1日
株式会社マルキチ
代表取締役社長 木村 顕治

沿 革

5

1689年

初代丸屋吉兵衛が大阪市中央区南船場で油問屋を商う。

1916年

大阪築港に製油工場を建設。植物油脂の製造開始。

1945年

第二次世界大戦時、空襲により店舗・工場が焼失。

1946年

業務再開。

1950年

社名を株式会社木村商店に変更。

1956年

大阪市中央区南船場に本社社屋を建設。

1981年

社名を株式会社マルキチに変更。

営業本社を東大阪市本庄西に移転。

1984年

冷凍食品を始める。

2004年

営業本社に冷凍4階建て冷凍倉庫を増築。

2008年

環境経営システム エコアクション21認証取得。

2019年

環境省コミュニケーション大賞 環境経営レポート部門 優良賞受賞

2020年

社内リフォーム

環境理念

健康・安全で豊かな暮らしを提供する事で社会に貢献し時代のニーズに応え、環境保全に努めます。

環境経営方針

私たちは、地球に生きる一員として未来へ美しい環境を伝えるために、経営活動によって生じる地球環境への負荷を削減する取り組みを自主的・積極的に行います。

食に携わる企業として、【たべものを粗末にしない】心を忘れず、食品資源の無駄をなくす取り組みをします。

環境保全への行動指針

7

1. 以下のことに継続的に取り組みます。

- 電力による二酸化炭素削減
- 自動車燃料による二酸化炭素削減
- 一般廃棄物の削減
- 食品廃棄物の発生抑制・再生利用率の向上
- 水道水の削減
- 社員の健康増進と感染対策
- 毒劇物の適正管理
- 営業方法の改革で企業価値の向上

2. 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。

3. 環境への取り組みを環境経営活動レポートとして公表します。

制定日：2007年11月1日 改定日：2021年11月4日

代表取締役 木村 顕治

組織概要と認証・登録規範

8

事業者名 株式会社マルキチ

代表者名 代表取締役社長 木村 顕治

所在地 大阪府東大阪市本庄西3丁目8番18号

環境管理責任者 責任者：総務経理 豊田 泰治

担当者：営業 羽豆 太洋、峰岡 太志

連絡先 TEL:06-6745-4400 FAX:06-6746-7034

Mail:info@marukichi.co.jp

HP:www.marukichi.co.jp

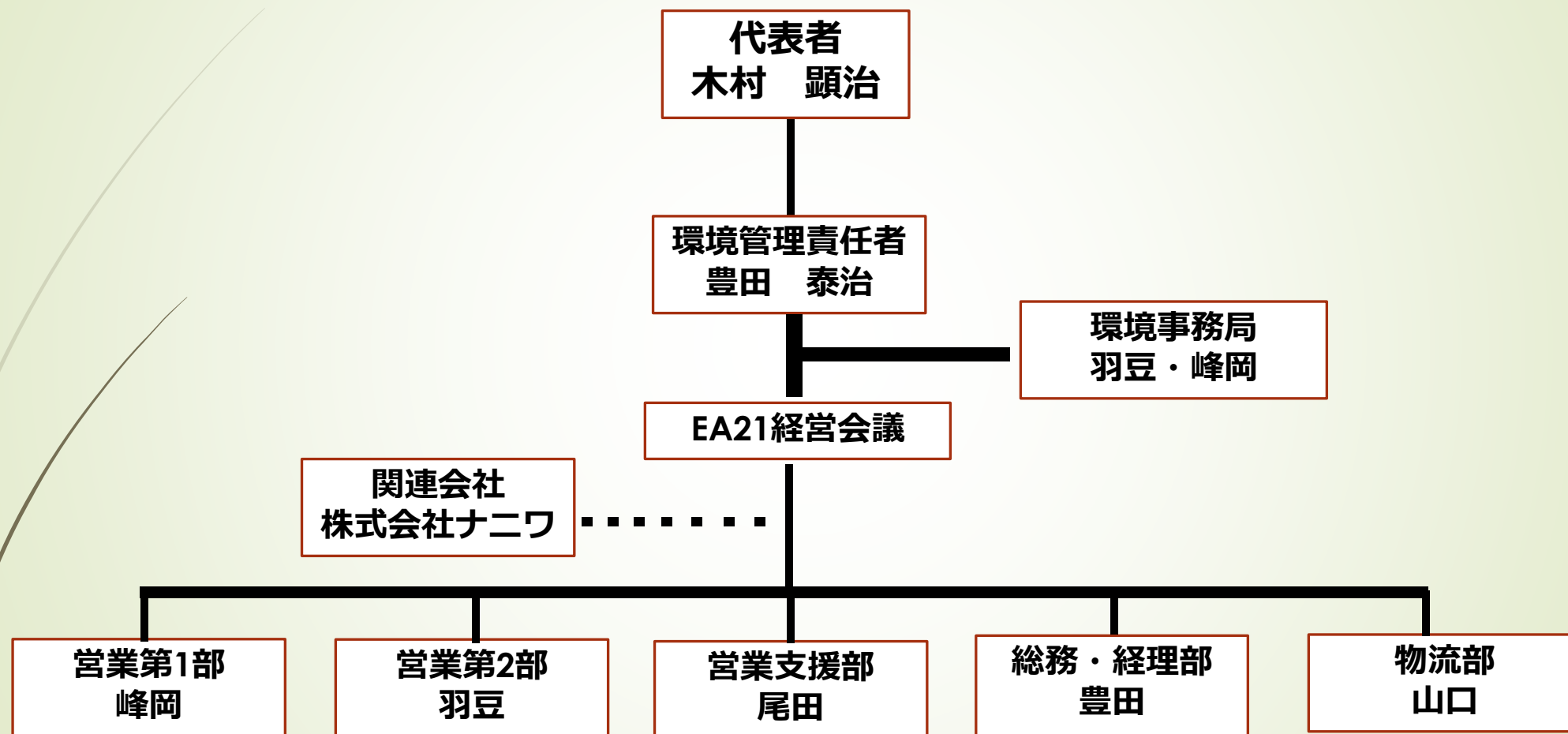
事業内容 油脂、食品、洗剤の卸売、輸入販売

事業規模 資本金:5,300万円 従業員数26名

事業年度 10月1日～翌9月30日

認証登録の範囲 全社認証・登録範囲

組織図①



※2021年8月1日組織図改定

組 織 図②

10

	役割・責任・権限
代表者（社長）	・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間等経営資源を準備 ・環境管理責任者を任命 ・環境経営方針の策定・見直し ・環境経営目標・環境経営計画書を承認 ・代表者による全体の評価と見直し、指示 ・環境経営レポートの承認
環境管理責任者	・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境関連法規等の取りまとめ表を承認 ・環境経営目標・環境経営計画書を確認 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告 ・環境経営レポートの確認
環境事務局	・環境管理責任者の補佐、環境委員会の事務局 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施 ・環境経営目標、環境経営計画書原案の作成 ・環境活動の実績集計 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・環境経営レポートの作成、公開（事務所に備え付けと地域事務局への送付）
EA21経営会議	・環境経営計画の審議 ・環境活動実績の確認・評価
部門長	・自部門における環境経営方針の周知 ・自部門の従業員に対する教育訓練の実施 ・自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告 ・自部門に必要な手順書の作成及び手順書による実施 ・自部門の想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成 ・試行・訓練を実施、記録の作成 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員	・環境方針の理解と環境への取組の重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

環境経営数値目標と実績①

11

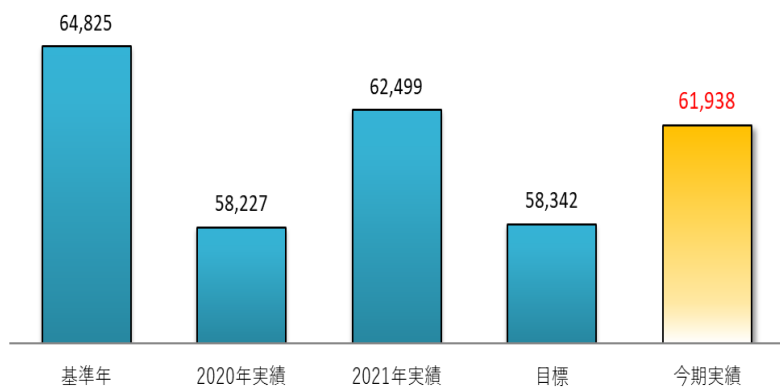
環境目標	単位	基準値 (基準度)	目標	2020年	2021年	2022年	評価	2023年 目標	2024年 目標
電力による 二酸化炭素排出量削減	kg-CO2	64,825	目標	—	—	58,342	×	58,342	58,342
		(2018年)	実績	58,277	62,499	61,938			
自動車燃料による 二酸化炭素排出量削減	kg-CO2	62,796	目標	—	—	56,516	×	56,516	56,516
		(2018年)	実績	42,661	46,754	59,774			
一般廃棄物の削減	kg	858	目標	—	—	858	×	858	858
		(2018年)	実績	784	1,482	1,365			
食品廃棄物の発生抑制・ 再生利用率の向上	%	83	目標	—	—	75	○	77	79
		(2018年)	実績	91	87	93			
水道水の削減	m ³	291	目標	—	—	175	○	175	175
		(2018年)	実績	161	170	170			

電力の二酸化炭素排出係数kg-CO2/kWh : 0.496 (2017年度、2018年度) 0.418 (2019年度以降) 都市ガスは少量のため目標としていない。
数値目標のない取り組みについては次項の環境経営計画の取り組み結果と評価に記載

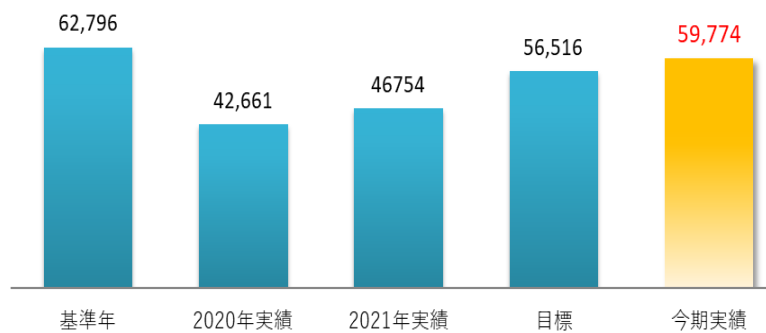
環境経営数値目標と実績②

12

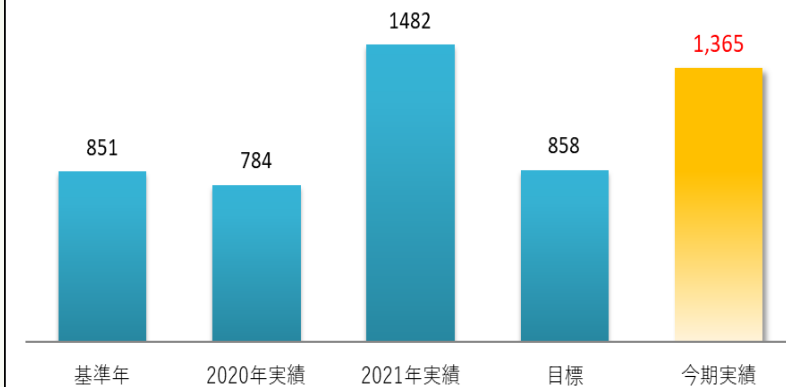
電力消費に伴う二酸化炭素排出量(kg-CO2)



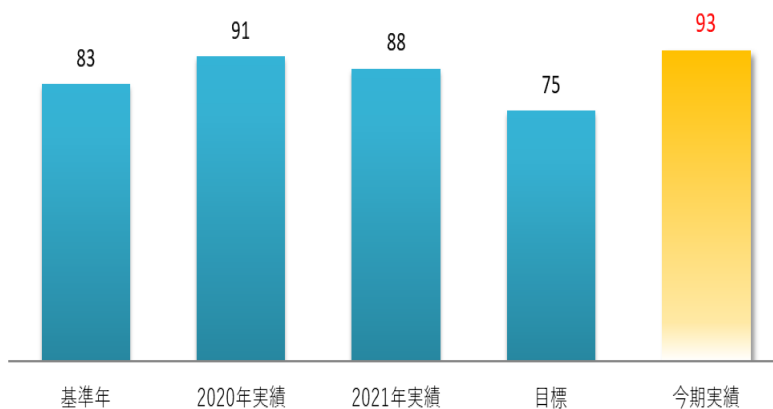
自動車燃料の消費に伴う二酸化炭素排出量
(kg-CO2)



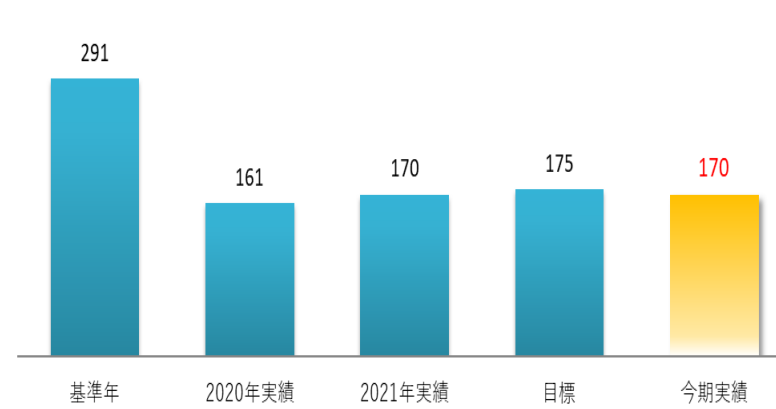
一般廃棄物の削減(kg)



食品リサイクルの推進(%)



水道水の使用量(m³)



環境経営計画の取組結果と評価

電力による二酸化炭素の削減



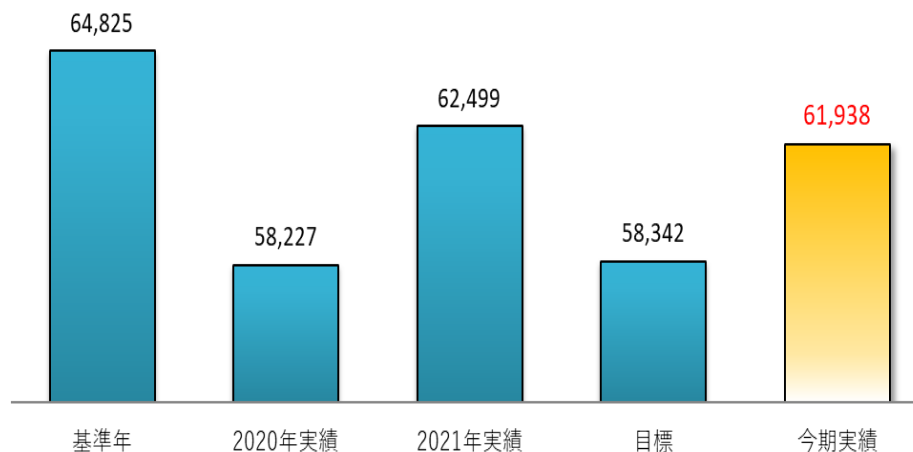
14

7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに

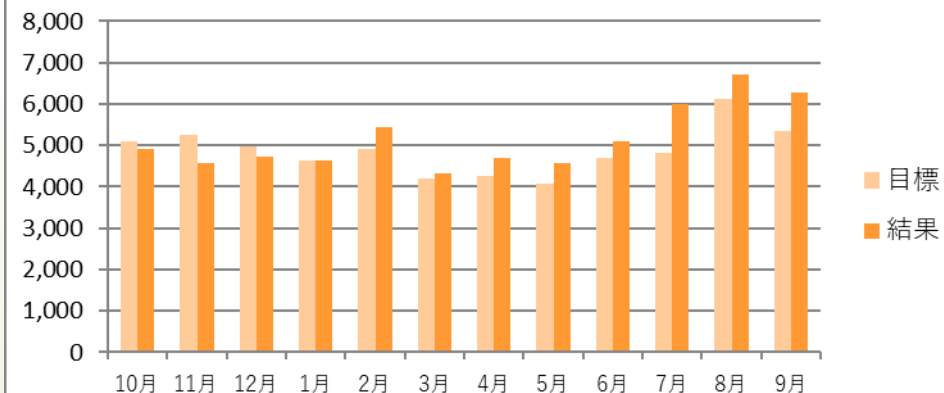


取り組み計画		取組結果とその評価
電力による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標 目標:58,342kg-CO2→実績61,938kg-CO2	×	目標値には達成できずだった。 電力消費に伴う二酸化炭素削減に関しては前年よりは良くなったが、数値目標は未達成に終わってしまった。ただ電力消費量減には限界があるので、次年度計画も引き続き達成目標値を90%に目指す。 ※目標達成手段は次年度も継続していく方針
・エアコンの温度調整	○	
・不要照明の消灯	○	
・長時間離席時にPCの電源を切る	○	
・業務効率化で残業削減	×	
・電気ポット廃止、必要な時に必要量のみ沸かす	○	
・業務用冷凍冷蔵庫の温度管理と効率の良いピッキング	○	

電力消費に伴う二酸化炭素排出量(kg-CO2)



月別 電力消費に伴う二酸化炭素排出量
(kg-CO2)



自動車燃料による二酸化炭素の削減



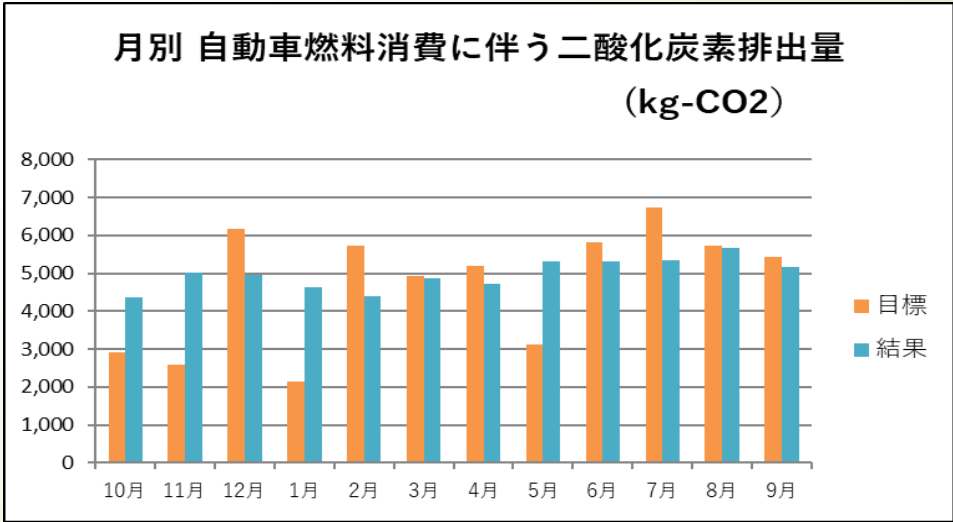
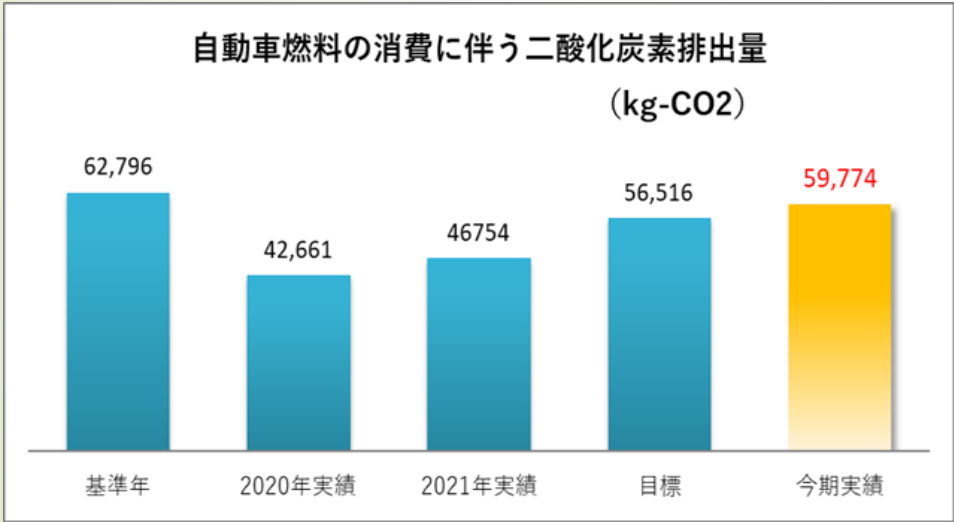
15

13

気候変動に
具体的な対策を



取り組み計画		取組結果とその評価
自動車燃料による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標 目標:56,516kg-CO2→実績:59,774kg-CO2	×	今期は5月より新型コロナウイルスが第5類になるのどの影響で遠方への出張回数などが増加した影響で前期と比較すると二酸化炭素排出量が大幅に増えてしまった。また安全運転について見直す機会を設けることができなかったのので来期はそちらも取り組めるよう努めていきたい。 次年度も目標値は基準年度比90%にして行動していく。 理由としては、次年度は完全にコロナによる規制も緩和され、営業の外出頻度も増えることが予測されるので敢えて高めの目標値90%とした。
・エコドライブ(急発進、急ブレーキの抑制)	○	
・安全点検の習慣化(月初安全点検)	○	
・社員が自身の運転を見直す機会を設ける	×	
・営業が荷物を運ぶなどの無駄な業務を減らす	○	





一般廃棄物の削減



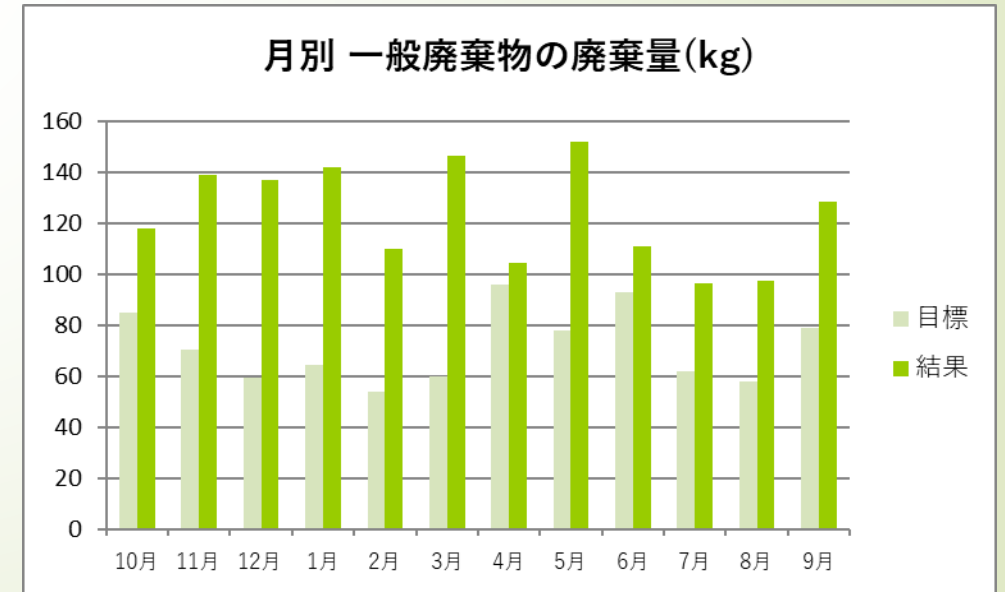
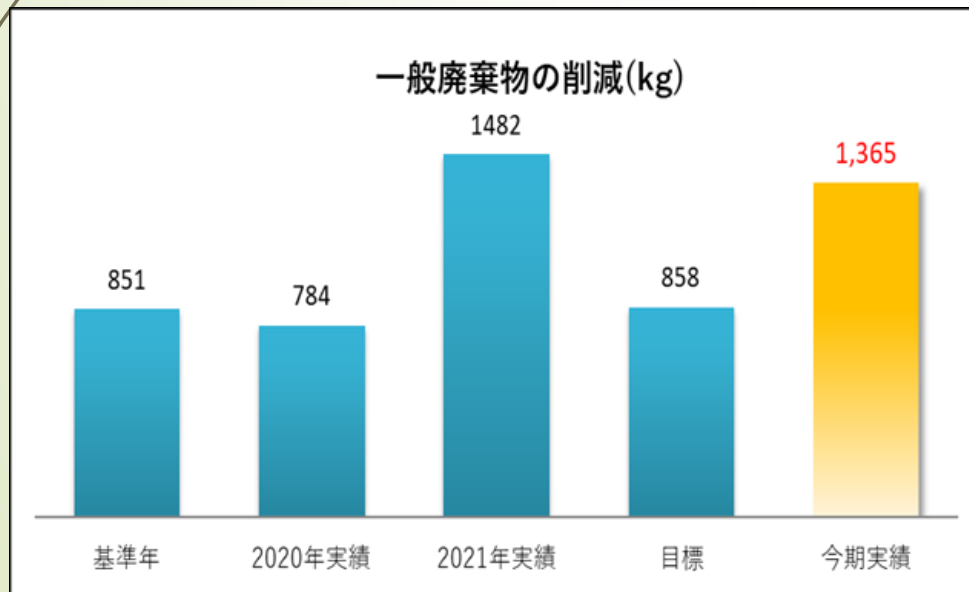
11 住み続けられる
まちづくりを



12 つくる責任
つかう責任



一般廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標 目標:858kg→実績1,365kg	×	年2回の大掃除の際に不要な商品カタログやサンプル等をまとめて廃棄したため、廃棄量が大幅に増えてしまった。また古紙回収については各社員で意識の差が見受けられ紙も一般廃棄物としてゴミ箱に捨ててしまっている社員が散見されたので来期はそのあたりを是正していきたい。 次年度は、廃棄物の見直しもかねて目標値100%で行動していく。
・分別の徹底	○	
・古紙回収の徹底	×	





食品廃棄物の発生抑制・再生利用率の向上



17

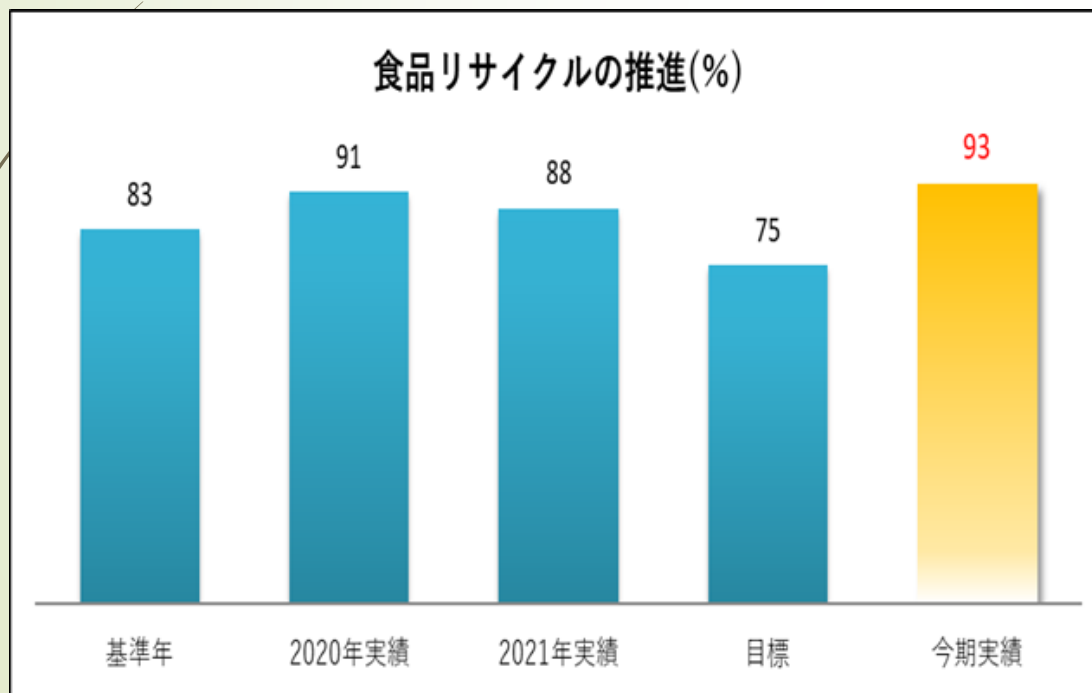
11 住み続けられる
まちづくりを



12 つくる責任
つかう責任



食品廃棄物の発生抑制・再生利用率の向上		達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標 目標75%→実績93%		○	今期も賞味期限が近付いてきた食品は特価で得意先へ販売したり、社内販売をするなどして食品廃棄物の発生を未然に抑制できたのが良かった。 次年度も目標値を継続して行動していく。
・在庫管理による発生の抑制		○	
・分別の徹底		○	
・得意先への特価販売や社内販売による発生抑制		○	



食品廃棄物量排出量及び食品リサイクル実施率(kg)

発生量	27
発生抑制量	351
再生利用量	0
熱回収量	0
減量量	0
再生利用以外の量	0
廃棄物としての処理量	27
再生利用等実施率	93%

※発生量＝賞味期限が近い廃棄間近の食品

※発生抑制量＝廃棄予定の食品の転売量



水道水の削減

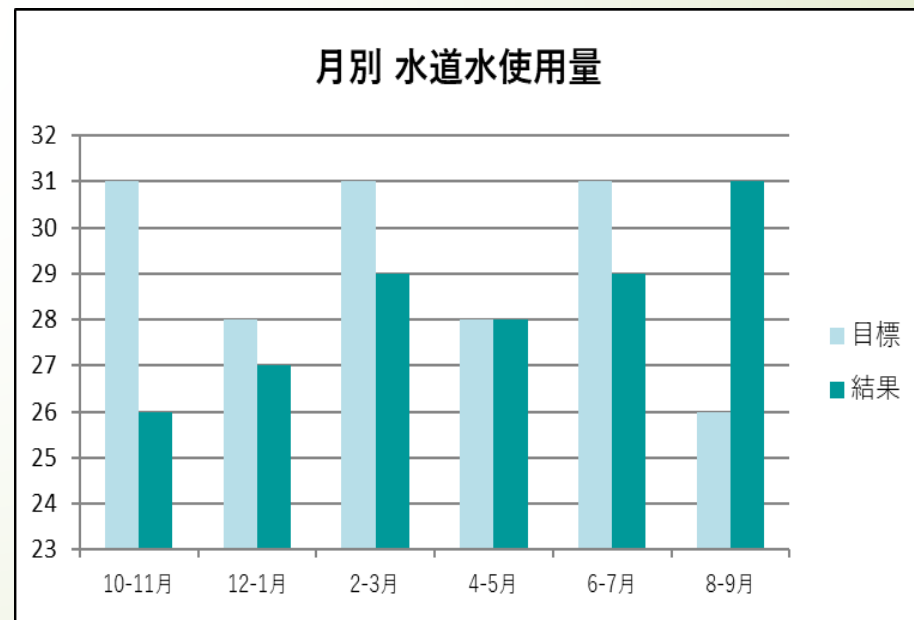
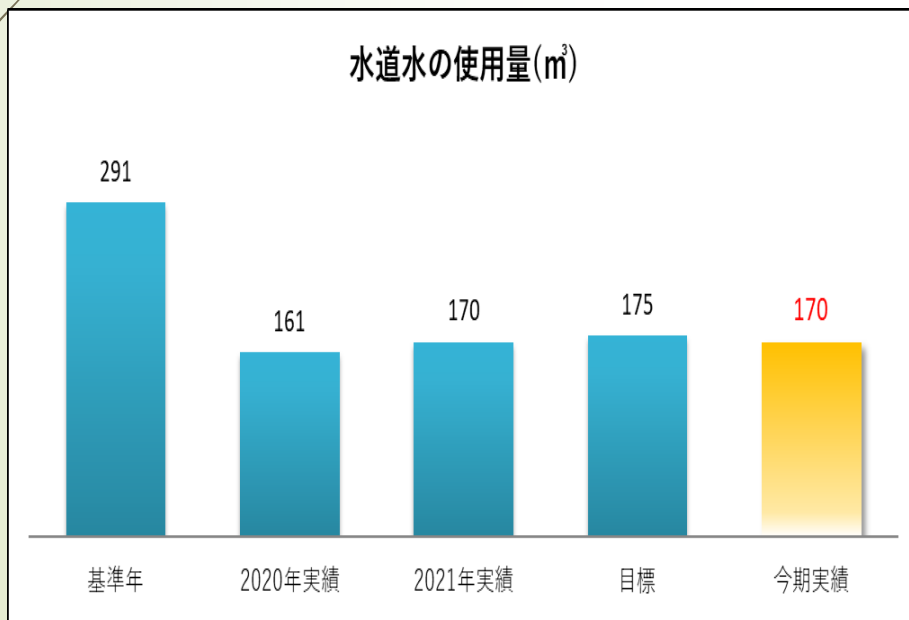


18

6 安全な水とトイレ
を世界中に



水道水の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標 目標:175m ³ →実績170:m ³	○	水道水の使用量に関しては今期も前期とまったく同じで目標値は達成することができた。ただ水道水の削減に関しては限界があるので、次年度も目標値は基準年度比の60%を目指して節水に努めてきたい。
・電気ポット廃止。必要な時に必要量沸かす	○	
・社員全体に節水意識の植え付け	○	



社員の健康増進と感染対策①

毒劇物の適正管理

19

3 すべての人に
健康と福祉を



社員の健康増進と感染対策	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
・健診受診率100%の維持	○	今期も社員の健康診断受診率100%を維持することができ、健康診断で問題があった社員に対しては総務の方から生活習慣の見直しや病院へ行くよう注意喚起したりなど検診後のフォローもしっかりとできていたのが良かった。 病気の治療と仕事の両立に関しては新しい制度を設けたりなど具体的な活動はできなかったもので、来期は何かしらの制度を整備できるようにしていきたい。
・健診結果への積極的な関与	○	
・病気の治療と仕事の両立支援	×	

毒劇物の適正管理	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
・リスクアセスメントの実施	－	今期、社内在庫が無くメーカー直送での取扱のみだったので問題なかった。 今後、取扱が増えるかも知れないので項目は維持。
・有害性物質の表示の徹底	－	
・従業員教育	－	
・保管場所の管理	－	
・代替物質の検討	－	

営業方法の改革で企業価値の向上

20

毒劇物の適正管理	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
・社内営業訓練	○	社内営業訓練に関しては洗剤を主に販売している営業第2グループ主導で食品を主に販売している営業第1グループに対して定期的に商品勉強会を企画・実施したりすることで商品知識や営業スキル向上を図れたので、これについては次年度も継続していきたい。 またSDGsと絡めて弊社内でも、例えば一斗缶洗剤を使用しているお客様へゴミ削減が見込めるパウチタイプの洗剤を積極的に提案したりすることができたのは良かった。
・会社ホームページの改良・維持	×	ホームページに関しては毎月2回定期ミーティングを実施したが、話し合いだけで終わってしまい具体的な改善には至らなかった。そのため次年度こそはより良いホームページに改良していけるよう話し合いだけで終わらせるのではなく、改善に繋がる具体的な行動ができるよう努めていきたい。
・営業トークでエコ・SDGs・BCPの話題振り	○	



環境関連法規等の遵守状況確認 及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

環境関連法規を遵守しています。

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りとなります。

適用される法規制等	適用される事柄(施設・物質・事業活動)
廃棄物処理法	一般廃棄物・産廃
騒音規制法、振動規制法	冷凍機
消防法	消毒用アルコール取り扱いについて相談中
食品リサイクル法	油脂、業務用食品、再生利用等実施率
フロン排出抑制法	冷凍機・エアコン
顧客要求事項	納期厳守、クレーム対応

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。
なお、違反、訴訟も過去3年間はありません。

外部からの苦情はありませんでした。

これまでに苦情はありませんでした。

代表者による全体の評価と見直し・指示

今年度は5月から新型コロナウイルスも第5類に移行するなど、数年振りに通常営業ができた1年でした。

ただ予想していた通りコロナ禍の際に弊社内でも在宅勤務を推奨していましたが、全員出社体制に戻った影響で自動車燃料や一般廃棄物等の数値が悪化するなど反省点が多い1年でした。

次年度は電力等の基本項目の改善はもちろんのこと、社内業務の効率化と合わせて社員の健康増進に焦点を当てた活動を新たに企画・実施していければと思います。

2023年11月30日



環境経営方針

☒ 変更なし

☐ 変更あり

環境経営目標・計画

☒ 変更なし

☐ 変更あり

実施体制他

☒ 変更なし

☐ 変更あり



株式会社マルキチ

〒578-0965 大阪府東大阪市本庄西3丁目8番18号

TEL:06-6745-4400 FAX:06-6746-7034

MAIL: info@marukichi.co.jp

HP: <http://www.marukichi-net.com/>